

榧子をもよめり、歌にもかへとよめり、今かやといふは轉語也、蚊やうの義にはあらず、柏實とも見へたり、日本紀延喜式などに、柏をかじはとよめば、柏に數種ありと知べしかへの社貫之集に見へたり、

〔牛馬問〕或人の曰、柏の字かしはと訓ずるは誤歟予、○新井答て曰、柏は和名コノテガシワ、又古訓にカエといふ、不變といふ略訓にして、和朝常盤木の總名なり、此もの種類おほし、各和名有、扱又もろこしの俗、柏を栢に書誤用ゆる事久し、日本の俗、栢は柏の字の俗字なる事をえらず、右のカエの訓をカヤとあやまり、栢の字と混するものなり、正字俗字を別て二字とし、二物と誤のみ、〔草木性譜〕人栢

百木の長とす、深山の産なり、其嫩時、枝條稠密、數十歳を經れば、獨出、其枝横斜し、甚だ長じがたし、多壽にして、松と壽を齊す、葉面葉背、其色同じ、春時、細小花を生じ、實を結ぶ狀、小鈴の如し、霜後に至て、四裂す、小子あり、生じがたし、凡萬木皆陽に隨ふ、然るに、此枝西に隨ふ、是其性なり、蓋陰木なるべし、舊説に、樵夫山に入て、東西を失すれば、栢を看て、知ると云ふ、又扁栢汝南花栢本草、竹栢同上、檜栢同上、刺栢本草、羅漢栢山東左紐栢事物、等は皆栢の一種なり、瓔珞栢花鏡傳、矮檜事言は其類、屬中の一種なり、最扁栢を貴とす、即和國の良材なり、

本草綱目釋名云、時珍曰、按魏子才六書精蘊云、萬木皆向陽、而栢獨西指、蓋陰木而有貞德者、故字從白、白者西方也、

〔佐渡志〕五物產、栢

扇栢トモ、昔ハ此國ニナカリシナリ、今アルモノハ、皆近キ世ニ他ノ國ヨリ移シ栽タルモノナリ、

〔日本書紀〕神代是時、素盞鳴尊、自天而降、到於出雲國簸之川上時、○中略至期、果有大蛇、頭尾各有八岐、